

水曜通信 5

東北学院大学研究ブランディング事業通信
「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」

2017年
9月

第5回水曜礼拝（公開大学礼拝） 2017年9月20日（水）18:30-19:00



説教：佐藤 司郎（本学教授）

奏楽：小野 なおみ（本学礼拝オルガニスト）

<礼拝次第>

前 奏：C.M.ヴィドール「オルガン交響曲第5番」より
“第4楽章アダージョ”

讃美歌：39番「ひくれて よもはくらく」

聖 書：マタイによる福音書6章25-34節

讃美歌：222番「あめなる つかいのうたは」

説 教：「思いわずらうな！」

祈 禱

頌 栄：539番「あめつちこそぞりて」

後 奏：E.エルガー「晩禱のヴォランタリーOp.14」より
“8ポコ・アダージョ-コーダ”

後奏の後、19：10から礼拝堂において、
20分の講話「絵のように美しいタミーノ」
(担当：鐸木道剛 本学教授)

9月から水曜礼拝は第3水曜日となりました。

次回第6回水曜礼拝は**10月18日**です。

神学部門研究会（第1回）報告

日時：7月21日(金)16:20-18:20 場所：コラトリエ・コモンズ 参加者4名

東北学院大学ブランディング事業のキーワードでもある「土着と超越」について、鐸木が問題提起した。カール・レーヴィット（仙台滞在：1936-41）の有名な仙台（まさに！）でのコメントである。曰く、日本の学問では2階に西洋の学問がプラトンからハイデggerまで揃っているが、1階では日本の日常が営まれており、1階と2階を繋ぐ梯子がない。第1回はレーヴィットの立ち位置についての議論で時間切れとなった。レーヴィット研究もまた「土着と超越」の研究テーマである。次回は10月に行う予定である。学生たちの積極的な参加にも期待している。

8月3日ステンドグラス修復公開報告

日時：8月3日(木)14:00-16:00 場所：ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

7月31日からステンドグラスの修理が始まり、8月3日に修復作業を公開しました。市民160人の参加があり、夏休み中でもあり、小学生の参加も多く、間近でみる工芸品としてのステンドグラスの密度に感銘しました。修復担当の平山健雄氏が解説しまし



た。ステンドグラスは横浜の平山氏の工房で修理され、来年2月末に再設置されます。それまではその場所にはカーテンが付けられます。

8月7日、ステンドグラスの場所にカーテンが設置されました。

「フランダースの犬」でルーベンスの絵を覆っているカーテンでもあります。聖なるものはカーテンの向こうです。父なる神はあくまで見えないのです。しかし「モーセがベールで覆ったものを、キリストの教えがベールを取って明らかにする (Quod Moyses velat, Christi doctrina revelat)」とは12世紀のシュジェールの言です。つまりカーテンのある今は、見えない神の旧約の時代で、2月末にステンドグラスが改めて設置されると、万人に見える人となったイエス・キリストが示され、新約の時代となります。旧約から新約への展開は、なんと感動的なことでしょう。

(鐸木道剛)



第4回水曜礼拝報告（説教：阿久戸義愛、奏楽：小野なおみ）

7月12日（水）18：30－19：00

前 奏：J.L.クレープス：心よりわれ汝を愛す、おお主よ

聖 書：『ルカによる福音書』24章13-32節

説 教：「光の射す方へ」

頌栄に続いて19時30分まで、後奏として小野なおみ氏（本学礼拝オルガニスト）のオルガン演奏による讃美奉献をおこないました。118名の市民の参加がありました。



【説教要旨】

キリストは、暗闇を照らす真の光であるとされる。東北学院も「世の光」であることを自らの教育の使命としている。キリスト教は、この世に対してまさに光となる使命を負ってきた。光はどこから射してくるのか。上からの、十字架の上からの光こそ、私たちに照らす光である。私たちは世の光となるべきである。しかし、私たち自身が光を発する存在となるのでなくとも、光が射してくる方へ身を向けるとき、あたかも太陽の光を受けて美しく輝く地球のように、私たちの姿は光り輝く。それこそ、世を照らす光である。私たちは今この夜から、光の射す方へ、祈りつつ歩みを進める。

【後 奏】

J.S.バッハ：チェンバロ協奏曲第5番 へ短調BWV1056より 第2楽章 ラルゴ

J.S.バッハ：前奏曲とフーガ 口短調 BWV544R

シューマン：「子供の情景Op.15」より「トロイメライ（夢）」

M.デュリュフレ：ソワツソン大聖堂の鐘によるフーガ Op.12

今回は最後の4曲のオルガン演奏を礼拝から切り離さずに行う、というのが私の願いでした。100名を超える力強い賛美の歌声、説教、祈り、奏楽とその場集った方々と共に礼拝を作り、捧げたことに感謝します。

（小野なおみ）



ブランディング事業主催・共催・協賛の講演会のお知らせ

総合人文学科ファカルティ・フォーラム

「マルコ福音書—十字架のキリストに従う者への福音書—」

2017年10月6日(金) 14:40-16:10

土樋キャンパス ホーイ記念館3階H302教室

ペーター・ランペ (ハイデルベルグ大学神学部教授)

「自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(マルコ8章34節)と読者に呼びかけるマルコは、なぜ十字架のキリストに集中する福音書を記したのだろうか。ドイツを代表する新約聖書学者のひとりであるペーター・ランペ氏が解き明かす。



ペーター・ランペ 教授

東北学院大学研究ブランディング事業シンポジウム

「我は福音を恥とせず—新約聖書における〈福音〉理解—」

2017年10月7日(土) 13:00-16:30

土樋キャンパス ホーイ記念館ホール

ペーター・ランペ (ハイデルベルグ大学神学部教授)

辻 学 (広島大学大学院教授)

吉田 新 (本学准教授)

パウロはロマ書1章16節で「我は福音を恥とせず」と記している。キリスト教信仰の根幹である〈福音〉とはいったい何か。〈福音〉理解を切り口に原始キリスト経の実像を浮かび上がらせる。



辻 学 教授



吉田 新 准教授

キリスト教文化研究所研究フォーラム2017

「歴史に学ぶ—宗教改革500年を前に—」

2017年10月21日(土) 13:00-16:30

佐藤 優 (評論家)

佐藤 司郎 (本学教授)

土樋キャンパス 8号館5階 押川記念ホール

ルターの宗教改革とは何であったのか、それは現代の諸状況において何をわれわれに語っているか。これを論じるに今注目の講師を迎えて明らかにする。



佐藤 司郎 教授

いずれも申込不要、参加無料です

文部科学省私立大学研究ブランディング事業とは：

学長のリーダーシップの下、大学の特徴ある研究を基盤として、全学的な独自色を大きく打ち出す取り組みを行う私立大学に対し、施設費・装置費・設備費と経常費を一体的に支援するもので、各大学の特色化・機能強化の促進を目的としています。東北学院大学は、「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」との事業名で平成28年11月22日に採択されました。

東北学院大学研究ブランディング事業通信
第5号

2017年8月31日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

TEL: 022-264-6405 (研究機関事務課)

E-mail: branding@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL: <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/theology/>